

逗子の自然

(改訂7版)



逗子市教育研究相談センター

知ってた？

池子の森自然公園に残された貴重な自然！！

池子の森自然公園を整備するにあたり、平成26年度に現地調査を実施しました。その結果、多くの動植物が確認され、貴重な自然が残されていることが分かりました。

自然環境が保たれている理由の一つとして、約80年もの間、ほとんど人の手が入っていない状態だったことが考えられます。団地やマンションなどの宅地開発がなかったため、公園内の森林は時間をかけて自然の遷移が進みました。

コナラを主体とした落葉広葉樹林を中心に、尾根筋などにはスダジイやアカガシなどからなる常緑広葉樹林、谷沿いではイロハモミジやケヤキなどの斜面林など多様な森林が見られます。また、園内を流れる久木川の上流部には大きな池があり、その周辺にはヨシやマコモなどの湿性植物もまとまって見られ、全国的な重要種のタコノアシも生育しています。

このような樹林や草地などを生活基盤として、昆虫や野鳥など様々な生き物が多く生息することが確認されました。ぜひ、開園日には、池子の森自然公園で自然を感じてみてください。

現在も「池子の森自然公園自然環境調査会」という組織に引き継がれ、継続的に調査を行っています。新たな見地も充実した内容を主な調査項目ごとに紹介します。

久木川のホタル生息地

ホタルは池子の森自然公園を代表する生きもののひとつです。池子では8種類のホタルが確認されており、そのうちゲンジボタルとヘイケボタルは私たちの周りには最も身近なホタルとして有名です。ゲンジボタルは5月中旬から6月下旬に、ヘイケボタルは6月中旬から7月初旬に見ることができます。



2016年から続けている調査で園内では8か所のホタルの生息地を確認していますが、場所によってゲンジボタルの発生の時期が異なっている、年間の降雨条件によってヘイケボタルの発生が左右される場所があるなど、“池子の森自然公園のホタルの不思議”が少しずつ分かってきています。



池子の森自然公園（点線内）



マシジミ

池や久木川周辺の昆虫と水生生物

久木川や池とその周辺では、ウチワヤンマ、ヤマサナエ、コサナエ、リスアカネなどトンボ類が豊富です。また、中央の水路ではマシジミ（淡水に棲む二枚貝）が生息しています。

マシジミは淡水の河川の砂礫底に生息している二枚貝で、一般的に見ることができる貝でしたが、近年では外来種であるタイワンシジミの影響で数を減らしてきています。

神奈川県内でもマシジミの生息はきわめて少ないとされています。

ユビナガコウモリとアブラコウモリ

池子の森では、洞くつをねぐらにするユビナガコウモリと、家屋（かおく）のすきまなどをねぐらにするアブラコウモリの2種が確認されています。アブラコウモリは日没後、まだ明るいうちにねぐらから飛び出し、上空で時に体をひるがえし昆虫を捕らえる姿が公園以外でも観察できます。一方、ユビナガコウモリは名のとおり指が長く細いかま状の翼を持ち、暗くなってからねぐらを飛び出し高速で飛翔するため、観察が難しい種です。いずれの種も食虫性で、夜間に飛翔しながら大量に昆虫を捕食します。



ユビナガコウモリ



森林性鳥類の生息地

池子の森の後背林として広大な広さを有する豊かな森林があってこそこの公園の豊かな鳥類相が保たれています。夏鳥としてオオルリ、キビタキ、ホトトギス等が、冬鳥ではベニマシコ、シメ、イカル等が、秋の渡りの時期はエゾビタキ、ノビタキ等が見られます。

過去、4年間の調査では、約90種もの鳥たちが記録されています。都市公園である池子の森をこれだけ多くの鳥たちが利用していることは素晴らしいことです。



オオルリ

また、見逃せないのが絶滅危惧II類（VU）である夏鳥のミゾゴイです。

番（つがい）で行動しているのが観察されていますので、繁殖の可能性は大きいです。

シュレーゲルアオガエルの生息地

東側の谷戸の奥で生息が確認されています。逗子市内では本種の確実な生息地は確認されていないため、池子の森での保全が望まれます。5月ごろには「コロロ、コロロ」とさかんに鳴いているのを聞くことができます。

2019年は鳴き声の確認されましたが、2020年は確認されませんでした。

